韓国語教育のエキスパート

チョ・ヒョニョン教授の
韓国語教師へのアドバイス

趙顕龍＝著
貝森時子●川上洋子●鄭寿香＝訳

韓国語教育を文化という視点で捉え，
言語と文化の両面で韓国語を知る。

韓国語教師はもちろん，韓国語を
もっと理解したい学習者も必読の一冊！

語研

韓国語教育のエキスパート

チョ・ヒョニョン教授の
韓国語教師へのアドバイス

趙顕龍＝著
貝森時子●川上洋子●鄭寿香＝訳

語研

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

本書は，韓国で出版された『**한국어 문화 교육 강의**〔韓国語の文化教育講義〕』（夏雨出版刊）の日本語翻訳版です。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

はじめに——日本語版の発刊によせて

日本の読者に私の本を手に取っていただく機会を持つことができ，大変うれしく思います。私は福岡・熊本・大阪などで韓国語教師に韓国語の教授法や語彙について特別講義をするため，日本に何度も訪れたことがあります。さらには毎年，東京韓国文化院で韓国語教師研修を行っています。研修や講義の度に先生方の大変な熱意を感じています。

日本の学生に韓国語を教える機会も多くありました。日本の学生はほかの国から来た学生に比べ韓国語の習得が速いという傾向が見られます。これはもしかすると当然なのかもしれません。韓国語と日本語は語順が同じで，助詞が発達しており，動詞の活用があります。特に敬語が発達しているという点はほかの言語圏の学生たちが差をつけられる韓国語と日本語の共通点でしょう。また，語彙に漢字語が多いという点も韓国語学習に役立つでしょう。

ですが，学生たちが韓国語学習の難しさを訴えることがあります。私はこれは教授法の間違いに起因している可能性があると考えます。本書を通じて韓国語を教えている方や韓国語の上級レベルを目指して学んでいる方のお役に立てればと思っています。

本書は韓国語と韓国文化を紹介する方法について講義形式で紹介したもので，さらに日本語翻訳版を出版するにあたり原文の内容に加筆修正しています。私は語彙と韓国の言語文化について研鑽を積み，語彙と悟りについての研究もしています。今後，皆さんと実際に会って楽しく語り合う機会があることを願っています。

趙 顕龍（チョ・ヒョニョン）

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

目　次

1 限目　韓国語教育において考慮すべき価値

① 使用頻度に注目する　8

1 字母教育の例　10

2 時代の変化の流れに沿った教育　11

② 表現と理解を分けて考える　16

1 ことわざの例　17

2 擬声語，擬態語の例　19

3 4つの領域別の教育の例　21

③ 規範性と共に自然さも重要だ　22

1 表記法と発音の問題　22

2 韓国人の誤った表現　25

④ 規則を単純化すべきだ　27

1 敬語法の例　27

2 発音の例　29

⑤ 文化は言語と関連づけて教育すべきだ　30

⑥ まとめ　33

1 韓国語に関心を持とう　33

2 韓国語に込められている価値を伝えよう　34

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

2限目 どのように韓国語を紹介するのか

① 韓国語は世界 13 位の言語 38

② ハングル 41

1 子音 43

2 母音 50

3 音韻 54

③ ハングルと語彙 58

3限目 韓国語の語彙と韓国人の思考についての教育

① 韓国語の中には韓国人がいる 62

② 韓国語の見方〈1〉 名詞と用言の関係 64

1 身体 65

2 色 68

③ 韓国語の見方〈2〉 母音交替と語彙の形成 71

1 人を指す語彙の母音交替 72

2 人と物による母音交替 74

④ 悟りを与えてくれる韓国語 79

1 悟りを与えてくれる韓国語「**잘**（よく）」 80

2 韓国人にとって「**사랑하다**（愛する）」は「**생각하다**（考える）」 82

3 「**나쁘다**（悪い）」という言葉は？ 84

4 「**돌보다**（面倒を見る）」と「**보다**（見る）」の違い 85

韓国語教育のエキスパート チョ・ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

4限目 韓国語の語彙と韓国の文化

① 韓国語と「**버릇**（癖，習慣）」の文化 88

② 韓国語と「**숟가락**（匙）」の文化 93

③ 韓国語と「**온돌**（オンドル）」の文化 98

④ 韓国語と「**재미**（面白み）」の文化 106

⑤ 韓国の文化を表す色々な表現 109

1 「**점잖다**（上品だ）」と「**어리다**（幼い）」 109

2 韓国人の好きな語彙〈1〉 **시원하다**（涼しい） 112

3 韓国人の好きな語彙〈2〉 **구수하다**（香ばしい） 113

⑥ 漢字語を通じた価値教育

1 **동정**（同情） 115

2 **덕분**（徳分：おかげ） 116

3 **한심**（寒心：情けない） 118

⑦ 講義を終えて 119

【装丁】クリエイティブ・コンセプト

韓国語教育のエキスパート チョ・ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

1 限目

韓国語教育において考慮すべき価値

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

皆さん，こんにちは。今回の講義では韓国語教育の観点から見ると，何が重要でどのようなことを考慮すべきかを探ってみようと思います。

タイトルを「考慮すべき価値」としましたが，「価値」という言葉は色々な意味に取ることができます。ここで扱う内容は，韓国語教育に携わっている人や韓国語を誰かに紹介しようとする人が基本的に考えるべきことです。韓国語の先生方でも漠然としか考えたことがない方も多いので，講義をする時にこれだけはいつも覚えていてくださればと思い，「価値」について話そうと思います。「価値」という言葉は，元々は価値観と言う時に使う言葉です。ここでは何に価値を置いて教えるのかについてなので，「価値」を「重点」に変えて説明してもいいと思います。正しい観点という意味です。この時間は，韓国語を教える時にどのような点を重要視すべきかについて話したいと思います。

1 使用頻度に注目する

私が最初に提示したのは「使用頻度に注目する」ですが，見方によってはとても単純なことでしょう。使用頻度に注目するというのはどういう意味でしょうか。これは，よく使う言葉を教えなければならないということです。しかし，言うのは簡単ですが，先生方が実際に講義をしているのを見るともう少し使用頻度について考慮して欲しいと思うことが多いです。特に，韓国語だけでなく英語などの外国語関連の

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

教材を見てもあまり使わない表現が含まれていることが多いです。あまり使わない表現が多いから，学生が教材を通して学んだ表現を実際に使う機会がないのです。一度，「これは本当に私たちが使うような文なのか」と考えながら教材を分析してみてください。

昔，英語の授業で習ったことを思い返してみると，一生使わないであろう文が非常に多くありました。例えば，英語の１課で最もよく出てくるのが，「I am a boy.」です。ですが，私たちが実生活でこの言葉を使うことがあるでしょうか。文法的には，「I」の次に be 動詞「am」が来るということについて説明できるかもしれませんが，実際にこの言葉を使うことはほとんどありません。「I am a boy. ／ You are a girl.」この文は私が中学校１年生の時に英語のテキストの最初の課に出ていたものです。しかし，いつこの言葉を使うのでしょうか。この２つの言葉の意味は「僕は少年だ／君は少女だ」です。会話ではおそらく「え？　君は少年だと思っていたら，少女だったのか！」という場合にしか使えないでしょう。でも，誰かにそんなことを言ったら，言われた方はすごく怒るでしょう。そのような場合を除けばまったく使うことのない文です。このような使えない文がテキストにたくさん書かれているため，言語を一生懸命学んだはずなのに使うことができないのです。最もよく使いそうなシチュエーション，最もよく使いそうな表現と語彙に関心を持つ必要があります。私が最も重要な価値として挙げる１つ目の「使用頻度に注目する」とはこういうことなのです。よく使うものを教えなければいけないというのはわかりきった事実です

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

が，実際に教材を掘り下げていくと，よく使うものではなくあまり使わないものを提示している場合があるということです。

1 字母教育の例

さて，皆さんがハングルの字母教育をすると考えてみてください。皆さんならどんなことを教えますか。例えば，字母教育の時に使用する単語には二文字のパッチムを持つものがあります。実際，私は「ㄱㅅ」のようなものを入門段階で教えるのは控えるべきだと思います。なぜなら「使用頻度に注目する」という価値を前提とすると，この「ㄱㅅ」が使われている単語は入門段階ではほとんど必要ありません。「ㄱㅅ」が使われている単語といえば，何があるでしょう。一般的に「몫（分け前，役割）」のような単語があります。この単語はどのレベルで出てくるでしょうか。韓国語を学び始めた字母教育の段階で習っても，その後は中級でも出てきません。高級でも出るか出ないかくらいです。その辺にいる韓国人に「몫」という単語を１年に何回使うか聞いてみてください。一度も使わない人がほとんどだと思います。しかし，テキストでは「ㄱㅅ」の例として大体「몫」か「넋（魂）」を提示しています。一生に一度も使わない人がいるかもしれない単語なのにです。それくらい使用頻度が低い語彙を入門段階から教えているということです。

入門レベルの学生は，当然テキストに出てきた単語を覚えようと努力します。しかし，あまり使うことのない単語を懸命に覚えたところでどうするのでしょうか。二文字のパッチムの場合，このような事例

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

が非常に多いと言えます。「ㄹㅌ」なども同様です。「훑어보다（目を通す）」，または「핥아먹다（巻き上げる）」という単語に「ㄹㅌ」が含まれますが，これらは簡単な単語ではありません。そのような意味で考えると，語彙や文を提示する時は常に「よく使うものなのか？」と，絶えず自分に問いかけてみなくてはいけません。そうやって問いかけてよく使うものだけを教えるべきなのです。あまり使わないものは入門レベルで教えるのではなく，その語彙が出た時に教えればいいのです。「ㄱㅅ」が含まれている場合も，その語彙が出た時に「ㄱㅅ」を教えてあげてください。しいて最初から教える必要はありません。韓国語が難しいという大抵の理由は，先生が難しく教えるからなのです。難しく教えるから難しいのです。簡単に教えれば簡単でしょう。難しい単語をたくさん教えておきながら，韓国語が簡単であってほしいと願うのは矛盾していると思います。そのレベルに合った使用頻度の高い，そんな語彙を教えてこそ学生にとっても易しい言語となるのです。

2 時代の変化の流れに沿った教育

① 語彙の例

時代が変われば学ぶべき語彙や表現も少しずつ変わってきます。例えば，「점（点，ドット）」という単語は簡単でしょうか。難しいでしょうか。一昔前であればこの「점」という単語は簡単な単語ではなかったため，普通は初級では出てきませんでした。使用頻度の原理に沿っていて適切だったと言えます。しかし，使用頻度とは常に固定的なも

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

のかと言われればそうではありません。最近では「**점**」は重要です。いつ重要視されるのでしょうか。外国人は韓国の友人ができると，すぐに「メールアドレスは？」と聞くではありませんか。例えば，「khu.ac.kr」で「**점**」を知らなければその場でメールアドレスの交換ができません。最近，外国人の学生と韓国人の学生が知り合うと一番初めに何をするでしょうか。電話番号を聞いて，メールアドレスを聞いて，時にはホームページのアドレスも聞きます。この時に「**점**」という単語を知らなければ理解できません。それで，この「**점**」という単語が使用頻度の面で見た時，今では重要な単語になったということです。

「韓国語を教える時に使用頻度に注目する」ということは，「これが本当によく使われるものなのか？」，「学生たちに本当に必要なものなのか？」と考えなくてはいけないということです。大抵，決められたテキストにだけ沿って教えますが，その方法が必ずしも良いとは言えません。なぜならテキストには変化はありませんが，韓国語には変化があるからです。変化の流れに沿って語彙と表現を教えることが重要だということを申し上げたいです。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

② 敬語法の例

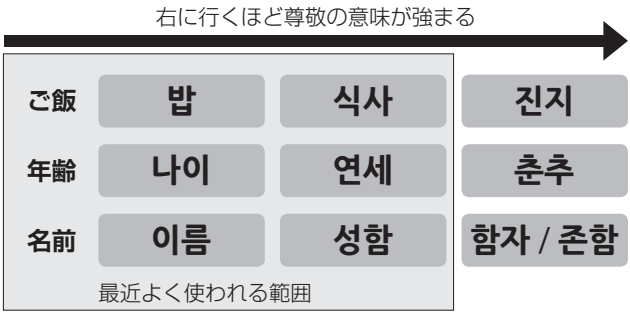
もう１つ考えてみると，敬語についての例が挙げられます。最近，私が学生に教えながら悩む場面はこのようなものです。「**밥 먹었어?**（食事した）」の尊敬語は何でしょうか。私が幼い頃，「**진지 드셨어요?**（お食事，召し上がられましたか）」と言うのが正解でした。ですが，最近は周りやドラマを見ても「**진지 드셨어요?**」という場面があまり出てきません。最近ではほとんど「**식사하셨어요?**（お食事なさいましたか）」を使います。このような場合，使用頻度というものが少し曖昧になります。「**밥**（ご飯）」の尊敬語は「**진지**（お食事）」なのに，今は「**진지 드셨어요?**（お食事，召し上がられましたか）」という表現がかなり減りつつあります。

「**나이**（年齢）」の尊敬語が「**연세**（お年）」です。「**나이**」から「**연세**」へと言葉を高める語彙は最近でも使いますが，昔は「**춘추**（お年）」がよく使われていました。ですが，最近では「**춘추**」をほとんど使わずに，大抵の場合は「**연세**」を使います。こうして見ると「**춘추**」の使用頻度が少しずつ低くなっています。

「**이름 - 성함**（名前－お名前）」以外に何があるでしょうか。「**함자**（お名前）」や「**존함**（ご尊名）」もあります。私が幼い頃は「**함자**」という語彙をよく使いました。でも，最近はあまり使いません。使用頻度も変わるので，特にこのような敬語は必要以上に複雑に教えるのはあまり良いことではありません。学生が一般的によく耳にするであろう表現を教えてあげるのが，かえって韓国語教育にとって大きく役立つ

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

ということをお伝えしたいです。



③ 接尾辞の例

接尾辞の中で「**-쟁이**」と「**-장이**」があります。通常，先生方に「この 2 つはどう違うのか」と質問をすると，たくさん勉強したからわかっているとか，国文科出身なのだから知っていると言って次のように答えます。「**-장이**」は主に特定の技術を持っている人で，「**-쟁이**」はそうではないと。正しい答えです。答えとしては合っているのですが，ここで問題にしたいのは「**-장이**」という単語を韓国人はあまり使わないということです。「**-장이**」に該当する単語を使うことがほとんどありません。特に韓国語を外国語として学ぶ外国人の場合，「**-장이**」を使うことはほとんどありません。

その辺の韓国人に聞いてみてください。「**-장이**」を使うのか。「**-장이**」が主に付いている単語が何かといえば，「**대장장이**（鍛冶屋）」，「**미장이**（左官）」です。30 歳手前の韓国人に「**미장이**」が何かと聞

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

いてみたことがあるのですが，知らない人が半数を占めていました。韓国人も「**미장이**」が何をしている人なのかは知りません。とにかく何か技術を身につけている人でしょう。だから「**-장이**」と付けたのでしょう。子供たちも「**대장장이**」がどういう意味なのか知りません。どうして「**-쟁이**」や「**-장이**」の意味が何なのかを外国人に教えなくてはいけないのでしょうか。習ってどうするのでしょうか。私が思うに，使用頻度が極めて低いものを先生が知っているという理由で教えることにほかなりません。それはやめるべきだということです。

よって，接尾辞を教えるかどうかの基準は「これはよく使う言葉なのかどうか」からスタートすべきなのです。私はいつも何かを教える時に，「これは，よく使うだろうか。これが外国人に必要なものだろうか」と，絶えず自問します。そうして必要だと判断した時には教えます。後で実際に「**대장장이**」が出てくる場面があるなら，その時にこの「**대장장이**」の「**-장이**」は，私たちが一般的に使う「**욕심쟁이**（ヨクシムジェンイ）（欲張り）」や「**심술쟁이**（シムスルジェンイ）（意地悪）」などに使われる「**-쟁이**」とは違うと，説明してあげればいいのです。「**-쟁이**」が出た時に「**-장이**」まで敢えて一緒に説明する必要はありません。「**-장이**」はすでにほとんど使われていない接尾辞だからです。

④ 課題の例

最近，手書きの手紙を書くことはほとんどないかと思います。過去に手書きで手紙を書くことが重要であったならば，最近は携帯でメッ

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

セージを送ったり，メールを送ったりする場面のほうが重要視されています。携帯メッセージを送る場合と，手書きのメモや手紙を書くのでは大きな違いがあります。なのに依然として韓国語の教材に，葉書を書く，または手紙を書くなどの課題が出ているのならば，使用頻度，時代の流れとはかけ離れたものになってしまうでしょう。

そこで，私は「新しく教材を開発し授業内容を組み立てる時には，可能であれば最近の学生がよくしていることを中心にしよう」と言います。「先生や友人に携帯メッセージを送ってみよう」と言うと学生は面白がって課題をします。パソコンを使ってメールを送ったり，ホームページに文章をアップしたりする活動を学生にさせると，楽しそうに一生懸命やります。ですが，手書きの手紙を書いて送ってみよう，郵便で葉書を送ってみようと言うとやりません。実際に応用して使うこともさほどありません。そのような意味からしても，課題の提示にも使用頻度がとても重要だと申し上げたいです。

2 表現と理解を分けて考える

次に「表現と理解を分けて考える」ということについて考えてみます。実はこの部分も私たちが外国語教育を行う時や，学ぶ時に少しなおざりにしていたのではないかという気がします。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

1 ことわざの例

韓国語の授業時間を見るとことわざを教える場合がとても多いです。そしてことわざに関する教材も数多くあります。ことわざは文化も垣間見せてくれるし，面白いですよね。だからしきりに教えるのです。もちろん，私の１つ目の原理による使用頻度において考えると，ことわざもそれほど高い頻度では使われません。したがって，使用頻度の面ではそんなに多く教える必要がありません。例えば，「**사공이 많으면 배가 산으로 간다.**（船頭多くして舟山に登る）」ということわざを１年に何回使うのか，周りの人に聞いてみてください。１度も使わない人が大半だと思います。あまり使わないということです。それなのにことわざ教育では常に教えています。仮に教えようとするのであれば，私は表現と理解を分ける術を知っておくべきだと思います。ことわざというのは韓国人同士で比較的によく使われるという特性があります。私が見たところ外国人が韓国人と話す時にことわざは使わず，韓国人同士でよく使い，学歴が高い人や社会的にみて指導階層にいる人よりも普通の一般人がより多く使っていると思います。田舎に行けばむしろことわざを自然と多く使っています。なので，このような場合には「意味が何なのかだけ知っておこう。全部使う必要はない」，つまり「理解だけすればよく，表現はひとまず考えるのはよそう」とし，分けてあげるべきです。

「**서당 개 삼 년이면 풍월을 읊는다.**〔門前の小僧，習わぬ経を読むの意。直訳すると，書堂（漢文などを教えた私塾）の犬３年にして風

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

月を詠む)」という例を見てください。考えてみるとどんなに難しい言葉でしょうか。「**서당 개 삼 년이면 풍월을 읊는다.**」を説明しようとすれば，「**서당**(ソダン)（書堂)」を説明するのにしばらく時間がかかります。その次に「**풍월**(プンウォル)（風月)」を説明する頃にはもう大変です。「**풍월**」をどう説明しますか。「**읊는다**(ウムヌンダ)（詠む)」の説明も非常に難しいです。でも，韓国の人は「**서당 개 삼 년이면 풍월을 읊는다.**」ということわざを使うことは使います。だから表現より理解という次元でことわざを教えるのなら，「**개**(ケ)（犬)」や「**삼 년**(サム ニョン)（3 年)」などの言葉が含まれることわざは，「ある事をする人の傍に長くいると，自分も自然とその事ができる能力が備わる場合」に使うものだと教えます。すると，その学生が後に「**서당 개 삼 년이면 풍월을 읊는다.**」ということわざを聞けば，「それは，こういう意味だったな！」と思い出して理解できるということです。つまり，「**서당**」や「**읊는다**」まで全部知らなくてもいいのです。それらの単語を表現する必要がない状況のほうが多いからです。それでも敢えて表現しようとするなら，完璧に理解した後でそれを表現に変える作業が必要になります。完全に理解した後に韓国語で表現できるように手助けしてあげるのです。

ところで今，韓国語教育においての問題が何かと言うと，「理解」と「表現」を区別していないということでしょう。そのため試験問題に次のように出したりします。「あることを近くで見守っていたら，それを自然と自分もできるようになること」に該当することわざを書きなさい。このように問題を出したら，これは表現させる問題になるためよ

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

くありません。そうではなく，「このことわざの意味として最も当てはまるものを選びなさい」とすれば理解を問う問題になるので大丈夫です。多くの場合，表現と理解を区別していないため学習者が勉強する時に負担となります。ことわざがどんなに難しいものか，皆さんが長期間習った英語について考えてみてください。英語のことわざをいくつ知っていますか。英語が本当に上手な人に聞いてみても，知っていることわざはさほどありません。それほど滅多に使わないのです。もちろん聞けばわかるでしょう。「あ！　それは，こういう意味だった！」と理解はできるでしょう。そのため表現と理解を区別してあげるということがとても重要となります。

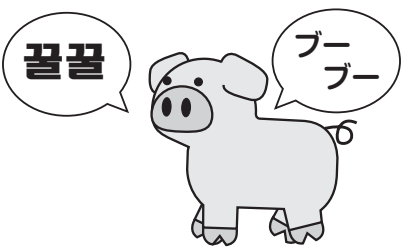
2　擬声語，擬態語の例

擬声語や擬態語もそうです。音を真似た言葉，姿形を模した言葉である擬声語，擬態語も大抵の場合，理解することが重要で表現は重要ではありません。「**멍멍**（モンモン）（ワンワン）」は犬の鳴き声で，猫が「**야옹야옹**（ヤオンヤオン）（ニャーニャー）」鳴くということについて理解ができてればよく，それを正確に何は「**멍멍**」と鳴き，何は「**야옹야옹**」と鳴くとすべて覚える必要はありません。外国人に聞くと，韓国語の擬声語の中で最も理解できないものが「**꿀꿀**（クルクル）（ブーブー）」だそうです。じっくり考えてみても私もちょっと理解できません。豚の鳴き声が本当に「**꿀꿀**」とはまったく似ていない気がします。「**야옹**」，「**멍멍**」はそれでも似ていますが，「**꿀꿀**」という語が一番似ても似つかない語だと

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

思います。

もう１つ面白いのが，豚は世界中の国で鳴くと思われているかもしれませんが，豚の鳴き声を表現しない国が多いということです。疑わしいと思うのであれば一度考えてみてください。韓国では象が鳴きますか。象の鳴き声は何ですか。鹿の鳴き声は何ですか。韓国でも鳴き声を表現しないものが多いです。韓国にあるからといって世界中の国でも動物の鳴き声があるとは限りません。そのため事実上，擬声語や擬態語が少し難しいのです。だからそれをすべて表現しようとする必要はありません。ひとまず「**꿀꿀**」なら，「あ，それは豚の鳴き声だな」程度に理解していればいいです。もちろん時間が経って「**꿀꿀**」という単語をきちんと理解したのならば，その時には表現できるでしょう。最初から表現と理解を同時に強調すればするほど，学習者は韓国語が難しいと思うようになります。語彙などの場合が特にそうです。初級に出てくる語彙すべてを表現する必要はありません。初級の語彙の中でも少し難しい語彙は理解語彙とし理解できる程度にだけ提示してあげ，その次に理解できる語彙が中級に移ったら表現語彙へと移行できるようにしてあげます。このように，常に学習者に韓国語を理解から表現へと変えていけるよう手助けしてあげる努力が必要です。



韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

3 4つの領域別の教育の例

最初から理解と表現を同時にたたき込もうとはせずに，初めはどんな意味なのかを知っておくだけでいいということに注目し，次の段階では理解したものを表現に変えるやり方が韓国語教育ではとても価値あるものだと言えます。ですが，過去に私たちが外国語教育を受けた立場からすると，私の経験上ではそのような区分が特になかったと思います。

リーディングやヒアリングに出てくる語彙が難しいですか，あるいはスピーキングやライティングに出てくる語彙が難しいですか。当然，その内容から見るとリーディングやヒアリングのほうが難しいでしょう。外国語が読めるレベルくらいに書けるのなら相当できるということです。そして聞き取りができるくらい外国語を話せるならそれはもっと実力があると言えます。なぜなら，リーディングやヒアリングに使用されている内容と語彙は非常に難しいからです。よって当然，リーディングやヒアリングに出てくるものは理解中心に教えるべきで，そこに出ているものをすべて書いて話しなさいと教えてはいけないということです。しかし大抵の場合，理解と表現の教育の区別が上手く行われていないと申し上げたいです。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

3 規範性と共に自然さも重要だ

3番目に「規範性と共に自然さも重要だ」というのは実際に論争の多いテーマです。規範性とは，韓国語では主に語文規範（ことばと文章についての規則）について言います。一般的に国立国語院で定めたものとして，正書法（綴りの規則）の問題や標準発音の問題などが規範的なものに該当します。正書法は実際にはさほど問題ではないですが，標準発音はかなり問題があります。規範性と自然さが異なる場合があるために起こる問題があるということです。特に標準発音ではそうです。

1 表記法と発音の問題

今では両方の表記が正しいと認められていますが，「**자장면**（チャジャンミョン）（ジャージャー麺）」と「**짜장면**（チャジャンミョン）（ジャージャー麺）」のどちらが正しいのかという論争はとても重要な問題でした。 後々，表記法とも繋がってきますが，ジャージャー麺の発音は「[**자장면**] と教えるべきなのか，[**짜장면**] と教えるべきなのか」と，外国人学生を教える先生方に聞かれます。そんな時は,「[**짜장면**] と教えなさい」と答えます。なぜでしょうか。実際に私が韓国の学生に「君は [**자장면**] と言うか，それとも [**짜장면**] と言うか」と聞くと, ほとんどが [**짜장면**] と言います。[**자장면**] と言う人をほとんど見たことがありません。ですから，もし外国の学生に以前の規範どおりに [**자장면**] と教え，その学生がどこか

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

に行き「[**자장면**] ください」と言ったら韓国人に「あ，韓国語をちゃんと習わなかったんだな。韓国語が上手くないんだな」と思われます。

2011 年 8 月 31 日付で「**자장면**」と「**짜장면**」の両方の表記が認められました。

発音についての例をもう 1 つ上げてみます。「**김밥**（韓国風のり巻き）」の発音は［**김빱**（キムッパプ）］が正しいでしょうか。［**김밥**（キムパプ）］が正しいでしょうか。規則では［**김밥**］が正解です。しかし，私が「**김밥**」のお店に行って注意深く聞いてみましたが，「[**김밥**] をください」と言う人はいませんでした。皆，「[**김빱**] をください」と言っていました。なのに学生に規範的な発音［**김밥**］だけを教えたなら，この学生が不自然な韓国語を喋っているように見られるということです。だからと言って[**자장면**]，[**김밥**] と教えるのはやめようということではありません。元々［**자장면**]，[**김밥**] が標準発音ですが，韓国人のほとんどが［**짜장면**]，[**김빱**] と言っていることを一緒に教えるべきだということです。

これがどのような時に問題が大きくなるかと言うと，ヒアリングをする時です。韓国人は上記のように発音をするのに，それを聞いた外国人が「ん？　あれはどういう意味なのだろう？」と思うならば問題になるでしょう。言語を学ぶということは意思疎通を図ろうとすることなのに，かえって意思疎通の妨げになります。

もともと語文規範（ことばと文章の規則）というのは若干保守的な面があります。現在の標準発音はどのような人が使う言葉なのかということを考えてみると少しおかしな点があります。なぜ，最近の韓国人がしないような発音を標準発音と言うのでしょうか。考えてみると

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

少し変です。韓国の標準語の規定は「現代，ソウル，教養のある人」です。この 3 つの基準からして少し曖昧です。なぜなら教養ある人とは誰を指して教養のある人と言うのでしょうか。教養があるように見えても，特に標準語を使っていない人もたくさんいます。したがって 1 番目に「教養のある人」，その次に「現代」が基準としては曖昧です。私の考えでは，この「現代」とは正確に言うと現在の 60 ～ 70 代です。60 ～ 70 代のソウルに住んでいる人を指しています。より正確に言うと，その家系が 3 代くらい続けてソウルで暮らしていなければいけません。その世代の祖父もソウルに住んでいた場合，発音を聞いてみると［**김밥**］，［**자장면**］と発音します。その発音を現代の標準発音としているのです。最近ではすでに 60 代初めの人も標準語話者ではありません。70 代近くにならないと標準語話者とは言えません。なぜならだんだんと年齢が上がってきているからです。それが現在まで語文規範（ことばと文章の規則）となっていますが，あまりに保守的と言えども，若い世代と約 50 年差がある言語生活なので，それを外国人にもまったく同じように規範的なものとして強調して教えることはできません。このような場合，より自然なものは何かについても教えようとする努力が必要です。もちろん正書法ではそのように書いてはいけません。「**김밥**」を「**김빱**」と書くことまで許容するという意味ではありません。特に韓国人が会話で自然によく使うものであれば，そのような部分も一緒に教えることも必要だと言えます。それでこそヒアリングの際，正しい理解ができるのです。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

2 韓国人の誤った表現

このような例もあります。我が家で子供たちがこのように聞いてきました。「『**깨끗이**（きれいに，清潔に）』の発音は［**깨끄시**（ケックッシ）］と［**깨끄치**（ケックッチ）］のどちらが正しいですか」と。［**깨끄시**］が正解です 。どうして子供たちがそのような質問をしてきたのかと言うと，歌の中では発音がすべて［**깨끄치**］と出てくるそうです。それで歌を調べてみると，ほとんどが［**깨끄치**］となっていました。そこで外国人が［**깨끄시**］だけを習った場合，誰かが［**깨끄치**］と発音すれば「え？　この単語は何だ？」と思い，その単語が理解できないはずです。［**깨끄시**］が正しいですが，［**깨끄치**］と発音する人もいると話しておけば，聞いた時に［**깨끄치**］も理解できるでしょう。

そのような意味で考えると，規範性と自然さというものは常に同時に重要となってきます。特に意思疎通を強調する言語教育ではより重要だと言えます。もちろん，韓国人を対象とした国語教育では正しい表現をしなければならないので規範性というものがより重要になってきます。［**깨끄치**］と言わず［**깨끄시**］と言うのが国語教育では絶対に必要となります。しかし外国人や在外同胞の人に韓国語を紹介する時には，さらっと「［**깨끄치**］と言う人もいます」と話してあげることが，むしろ必要だと申し上げたいです。

「きれいに，清潔に」の意味の韓国語の表記は「**깨끗이**」ですが，ネイティブでも副詞形を作る接尾辞「**-이**」が同じく副詞形によく使われる「**-히**」であると誤解する人が少なからずいます。「**-히**」が付いた場合，**깨끗히**となり発音は［**깨끄치**］になります。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

私がいつも面白いと言っているものに，「**맞춤법**（マッチュムボプ）（正書法）」という単語があります。韓国語で難しいものの１つが正書法でしょう。ところが，ある韓国人が私に韓国語の正書法は難しくないと言うのです。それで私が「では，『**맞춤법**』という単語を書いてごらんなさい」と言うと，その「**맞춤법**」という単語の正書法を間違えていたのです。「**맞춤법**」と書く時に多くの人が（**마**の下に）「**ㅈ**」を書きません。

ある人は「**띄어쓰기**（ティオスギ）（分かち書き）」は簡単だと言います。そこで「**띄어쓰기**」と書くように言うと，分かち書きを間違えていました。「**띄어쓰기**」はこのように間を空けずに書かなくてはならないのに「分かち書き」という単語の分かち書きさえも間違っていたのです。従って韓国の言葉が正書法も分かち書きも難しいというのは，「**맞춤법**」や「**띄어쓰기**」という単語を見てもわかります。「**띄어쓰기**」は一つの単語なので「**띄어쓰기**」と言う時には付けて書き，「**띄어 쓰다**（分けて書く）」と言う時には，空白（スペース）を空けて書かなくてはいけません。「**붙여 쓰기**（付けて書くこと）」や「**붙여 쓰다**（付けて書く）」も空白を空けて書かなくてはいけません。ややこしいですね。よって，「**띄어쓰기**」と「**맞춤법**」を正しく使いこなすことが意外と大変だということを「韓国人の誤った表現」と一緒にお話してみました。

	띄어쓰기	띄어 쓰다	붙여 쓰기	붙여 쓰다
意味：	分かち書き	分けて書く	付けて書くこと	付けて書く
正書法：	くっつける	分かち書きする	分かち書きする	分かち書きする

分かち書きとは助詞，語尾以外の各単語を離して書くことです。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

4 規則を単純化すべきだ

「規則を単純化すべきだ」とは，外国人に韓国語を教えることを前提とした問題のためにそう言うのです。よって韓国人に教える時には規則が少し複雑でも構いません。

1 敬語法の例

敬語法の場合も，以前ならば「**나이－연세－춘추**（歳-お年-お年）」まで全部教えてもよかったのです。ですが，今は「**연세**」だけ知っていれば表現するのにさほど問題がないのに，あえて「**춘추**」まで知ってややこしくする必要があるでしょうか。最近では敬語法が大きく2段階に分かれている場合が多いです。以前は，敬語法は主に相手が誰なのかによって区別していたので複雑でした。相対敬語法と言われるものも元々6段階に分かれていましたが，最近では複雑なため2段階に分けて使うことが多いです。

例えば6段階の時には，「**해라**(ヘラ)／**하게**(ハゲ)／**하오**(ハオ)／**하십시오**(ハシプシオ)／**해**(ヘ)／**해요**(ヘヨ)」と，このように分けていました。この中で「**해라／하게／하오／하십시오**」は，一般的に格式ばっているので「**격식체**(キョクシクチェ)（格式体）」と言い，「**해／해요**」は「**비격식체**(ビギョクシクチェ)（非格式体）」と言います。非格式体を見るとどうでしょうか。「**반말**(バンマル)（くだけた言い回し）」か丁寧形の2種類しかありません。それで「**해**体」が実際には少し曖昧なのです。この「**해**体」はパンマルでしょうか。パンマルと言うにはちょっと曖昧です。なぜ

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

なら母親にも「**해**体」を使う時が多いからです。「**엄마 빨리 와.**（お母さん，早く来て）」という表現も問題ありません。絶対に問題がないというのではなく，このようにも使ったりもするということです。ところが「**빨리 와라.**（早く来い）」とは言えません。「**해**体」が完全に低めた表現（下称表現）をしているとは言い難いです。ですが「**해라**体」になると完全に低めた言い方（下称表現）です。格式体には全部で 4 段階の区分がありますが，最近では「**하게**体」と「**하오**体」はあまり使いません。4 段階に分けることはあまりせず，主に 2 段階で区分しています。主に「**해라**」か，あるいは「**하십시오**」の 2 つのうち 1 つだけを使い，最近では，「**빨리 가게.**（早く行きなさい）」，「**어서 오게.**（さあ来なさい）」とはあまり言いません。「**어서 오오.**（さあ来てください）」，「**빨리 가오.**（早く行きます）」はもっと使いません。このように「**하게**体」，「**하오**体」の表現が消えていっています。なぜでしょうか。それは敬語法の区分が複雑なため 2 段階へとなりつつあるからです。語彙も「**나이**」と「**연세**」があるので「**춘추**」をあまり使わないようにしています。「**밥**」や「**식사**」があるので「**진지**」は使わない傾向にあります。「**이름**」と「**성함**」の区分があるので，「**함자**」や「**존함**」は使わない傾向にあるということです。よって外国人学生に教える時は，規則を単純化させ，敬語を使うかどうか程度にだけとどめて教え始めたほうがいいです。最初からそこまで複雑にすべてを知る必要がどこにあるでしょうか。実際に考えてみると，言語をあまりに難しく教えすぎて問題が多く発生しています。

パンマルとは同年代や年下，ごく親しい相手に対して使う表現です。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

2 発音の例

今，私が説明しようとしていることも議論の余地があります。「**왜**(ウェ), **외**(ウェ), **웨**(ウェ)」という発音を区別できますか。敢えて区別しようとするならできるでしょう。ところが実際の会話での発音は，3つともすべて［**웨**］と似たように発音をします。「**너**(ノ) **어제**(オジェ) **왜**(ウェ) **안**(アヌ) **왔어**(ワッソ)？（お前，どうして昨日来なかったんだ？）」で「**왜**」を［**웨**］と発音することがよくあります。「**외국어**(ウェグゴ) **대학교**(デハッキョ) **다녀**(タニョ).（外国語大学に通っているんだ）」でも［**웨**］の発音に近いです。そこで問われるのは韓国語を教える時に，この3つを正確に区別して教えることが果たして正しいのかということです。最初はこの3つは主に［**웨**］の発音になるということを教え，それを正確に区別しようとする時には区別できると言及しておくのがいいと思います。最初からその3つをはっきりと区別しなければならないと言った瞬間，学生は「あ，韓国語って難しいんだな」と思います。実際にそうです。現場を覗いてみると，先生は学生に正確に教えておきながら実際に学生の前で発音する時は「**왜**，**외**，**웨**」を同じように発音します。ですから学生は習った発音と違うので混同してしまうのでしょう。

規則を単純化するというのは，「教えている内容がとても難しすぎやしないか。単純に提示するならば何だろうか」と常に問いかけることです。語彙や発音もそうですし，多くのことについて悩まなくてはいけません。難しすぎる表現や語彙はどこまで教えるべきかについて考えてみなくてはなりません。文法を教える時も同じです。段階に合わ

韓国語教育のエキスパート チョ・ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

せ単純化させて教えるほうが良く，過度に複雑に教える必要はないと言えます。この部分は前の「表現と理解」のところと繋がっていますが，例えば理由を表す色々な表現に細かな違いはあってもはっきりと大きな違いというものは現れません。そこで「理由を表す時にはこれを使いなさい」と使える表現を単純化させて教えてあげれば，韓国語で話す時に自信をもって話せるようになります。むしろその違いをあまりにも細かく提示してしまうと，韓国語を話す時に難しく感じてしまう場合が多いということです。

5 文化は言語と関連づけて教育すべきだ

5つ目に「文化は言語と関連づけて教育すべきだ」ということを説明したいと思います。まず，韓国語教育が難しくなっている理由に文化教育の内容を詰め込みすぎているという点を指摘したいです。だからと言って文化教育をするなというのではなく，難しすぎる内容を多く提示したために韓国語の授業自体が難しくなっているということです。例えば，教材で太極旗の模様についての説明をしているものが多々見受けられます。ところが，この説明に使われている語彙や文法はどんなに難しいでしょうか。太極旗について敢えて説明をするなら，その学習者の母国語で説明してあげることをお勧めします。そうすればむしろ細かく説明をしてあげることができます。「**건곤감리**（コンゴンガムニ）（乾坤坎

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

離，韓国の太極旗に現されている空と大地と水と火を象徴する４つのもの)」，考えただけでも難しくありませんか。

また，違う例で「キムチを作る方法」を教えるとなると容易ではありません。「어슷썰기（斜め切り）」のような表現をどう説明するのでしょうか。非常に難しいです。文化と関連したものの中でも「韓国語の授業時間には，主に言語教育と関連したものを扱わなくてはならない」と申し上げたいです。例えば敬語法のような場合，韓国の文化について話すことができます。その次に呼称や指称のようなものも，文化について語れるものがたくさんあります。ことわざも同様です。ことわざの場合も，我々教師が文化を紹介できる部分が数多くあります。このように文化について語れるものを言語の中に含ませて上手に扱えば，文化教育もさほど難しくありません。ところで「文化教育」と言うと，いつも伝統的なものや大層なものを多く考えてしまうという問題があります。そのような内容を韓国語の授業時間に韓国語で教えたら，とてつもなく難しい授業になります。そうすると韓国語を学びたいと思う気持ちが徐々になくなってしまいます。韓国語の授業は楽しく，比較的に簡単な授業だと思えるようにしなければなりません。そのようにするためには，教える側自身が韓国語は簡単で楽しいものだと思えなくてはいけません。そのような意味で考えた時，「文化教育」の内容が学習者が理解するにはあまりにも難しいものなら，いっそのこと学習者の母国語で提示し，そうでなければ言語教育へと繋がる文化が何かについて最大限に悩み，その後にその内容を教えなくてはい

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

けないという考えを持っていただければと思います。

最近の文化の内容も大衆文化，または現代文化についてのものが多くなっています。伝統文化は習っても思ったより使えるものが多くありません。かえって大衆文化や現代文化のほうが実用的なものが多いです。それをある用語では「事情教育」と言います。韓国の事情をよく知っているということです。韓国へ行きタクシーやバス，地下鉄に乗るという時に必要な交通文化があります。交通文化について理解していないと失敗する場合が多々あるでしょう。そのようなことを言語教育と関連付けさせるなら，「道探し」，「タクシーに乗る」といったことと繋げてその文化について自然に教えられます。

例えば日本のタクシーはほぼ自動ドアです。そのため韓国人が日本のタクシーに乗った時にどのような問題が起こるのかというと，タクシーから降りる時にドアをバタンと強く閉めるため問題が生じます。ともすると故障する事態が発生します。反対に日本の学生が韓国に行った時にはどのような問題が発生するでしょうか。タクシーから降りた時にドアを閉めずに行ってしまうのです。タクシーの運転手が驚いて「ドアを閉めていけ」と言ったとしても，当然そのまま行ってしまうでしょう。ですから，このような交通文化や車の乗り方に関連した文化を言語と関連した場面で説明してあげれば，はるかに簡単に文化教育が行えます。

もちろん伝統的な文化，韓国の伝統的な家具，服装に関することや韓屋（ハノク）（韓国の伝統家屋）の形に関しても教育が必要です。しかしそれ

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

らの内容が難しすぎるなら，別途時間を設けて教育するほうがかえって役立つのです。

6 まとめ

1 韓国語に関心を持とう

韓国語は生きています。言語は生きているのです。生きて動き息をしているのです。そのため常に新しいものがどう変わっているのか，新しい表現がどう出てきているのかについて考えなければなりません。仮に韓国の大学に進学したい外国人の場合なら，韓国の大学生が話している言葉が理解できなくてはいけません。韓国の大学生が話している言葉が理解できなければ，韓国の大学で過ごすことは非常に大変でしょう。必ずしも彼らの使っている表現が正しいというのではありませんが，そのような表現に対する理解は必要だと思います。ある学生がホームページの掲示板に「**저는 자소서가 어려워요**.（私は自紹書が難しいです）」とあげていました。それで「『**자소서**（自紹書）』とは何だろう？」と思い調べてみると，「**자기소개서**（自己紹介書）」を縮めた言葉でした。最近の大学生が実際によく使っている言葉です。「**학식에 갔다.**（学食へ行った）」と言ったりもします。「**학식**（学食）」とは「**학생식당**（学生食堂）」を縮めた言葉です。このように言葉とは変化し続けています。「このような言葉を使おう！」と言うのではな

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

く，韓国語を教える時に，また韓国語を学ぶ時に韓国語がどのように変化しているのかについても絶えず関心を持たなくてはならないということです。そうしてこそ自然な表現についても理解でき，その集団ときちんと意思疎通を図ることができるのです。そのような意味から，新しく変化していく言葉に対して関心を持つことも必要なことだと思います。

「教えるということ」は難しいことです。そう思うのは私自身よく知り，それについて説明をしてあげなくてはいけない立場だからです。常に韓国語に対する関心，言語に対する関心，相手，そして相手の国の文化に対する関心，相手の言語に対する関心があってこそ正しい言語教育が成し遂げられると考えていただければいいと思います。

2　韓国語に込められている価値を伝えよう

もう一言だけ付け加えると，言語を教えるということ，言語を教育するということは基本的に価値と関連しています。私たちがほかの言語を学ぶ時，何のために学ぶのでしょうか。その言語を学んでその言語を話す人たちとの競争で勝とうというのではなく，その文化を学び，彼らの思考，価値観を学ぼうとしているのです。基本的にそのような考えを持たなくてはならないと思います。教える場合も同じです。韓国語に込められている考え，価値などをよく伝えるために韓国語を教えるのであって，韓国語を通じて相手を蔑んで見たり自分が持っているものを恵んであげているのだと思ったりしてはいけません。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

言語教育とは新しい世界を見せてくれる力を伸ばすことです。通常，言語は１つの世界を含んでいると言います。よって韓国語を学ぶとまた違うもう１つの世界を得ることになります。そのような観点から言語教育をされるのであれば，韓国語教育においての重要な価値を発見できるのではないかと思います。韓国語の素敵な価値を紹介できるように願っております。

韓国語教育のエキスパート チョ･ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ

趙顕龍（チョ・ヒョニョン）
慶熙大学一般大学院国語国文学科博士課程修了，文学博士。現在，慶熙大学国際教育院院長。大韓民国文化部国語審議委員。
韓国での著書に《専門書》『韓国語教育の実際』(UCLINC, 2005 年)，『韓国語語彙教育研究』(パクイジョン，2007 年)，『韓国人の身体言語』（疎通，2009 年)，『韓国語の文化教育講義』（夏雨出版，2013 年）等。《言語関連の随筆》『ウリマル（韓国語）悟り辞典』（夏雨出版，2009 年)，『ウリマルで悟る』（夏雨出版，2009 年)，『ウリマル，胸に響く』（夏雨出版，2012 年，韓国出版文化産業振興院より世宗図書教養部門優秀図書に選定)，『ウリマル，疲れた肩を叩く』（夏雨出版，2014 年，韓国出版文化産業振興院より世宗図書教養部門優秀図書に選定)，『ウリマル，森から空を仰ぐ』（夏雨出版，2015 年，韓国出版文化産業振興院より世宗図書教養部門優秀図書に選定）等。日本での著書に『趙顕龍教授の韓国語で世の中を読む』（国書刊行会，2016 年)。

【訳者紹介】
貝森 時子（かいもり・ときこ）
慶熙大学教育大学院外国語としての韓国語教育専攻修了，教育学修士。
現在，慶熙大学一般大学院国語国文学科博士課程に在学中。
著書に『韓流スターにファンメッセージ！』（語研，2012 年)，『今すぐ書ける韓国語レター・E メール表現集 (共著)』（語研, 2013 年), 訳書に『韓国語能力試験レベル別完全攻略初級編／中級編／高級編（共訳)』（アルク，2012 年）など。

川上 洋子（かわかみ・ようこ）
慶熙大学教育大学院外国語としての韓国語教育専攻修了，教育学修士。
現在，慶熙大学一般大学院国語国文学科博士課程に在学中。
韓国の著書に『韓国語の発音征服（共著)』（夏雨出版，2016 年)。

鄭寿香（チョン・スヒャン）
在日韓国人 3 世。
現在，韓国語講師をする傍ら，通訳・翻訳業務も行う。

© Cho Hyun Yong; Tokiko Kaimori; Yoko Kawakami; Jeong Su Hyang, 2016, Printed in Japan

韓国語教育のエキスパート チョ・ヒョニョン教授の
韓国語教師へのアドバイス

2016 年 8 月 5 日　　初版第 1 刷発行

著　者　趙顕龍
訳　者　貝森 時子／川上 洋子／鄭寿香
制　作　ツディブックス株式会社
発行者　田中 稔
発行所　株式会社 語研
〒 101–0064
東京都千代田区猿楽町 2–7–17
電　　話 03–3291–3986
ファクス 03–3291–6749
振替口座 00140–9–66728
組　版　ツディブックス株式会社
印刷・製本　シナノ書籍印刷株式会社

ISBN978-4-87615-315-2 C0087
書名　カンコクゴキョウイクノエキスパート　チョ ヒニョン キョウジュノ カンコクゴキョウシヘノアドバイス
著者　チョ ヒョニョン
訳者　カイモリ トキコ／カワカミ ヨウコ／チョン スヒャン
著作者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。
定価はカバーに表示してあります。
乱丁本・落丁本はお取り替えいたします。

株式会社語研
語研ホームページ http://www.goken-net.co.jp/

韓国語教育のエキスパート チョ・ヒョニョン教授の韓国語教師へのアドバイス ためし読み → Webページへ